

みのかも

Minokamo Public Relations Magazine

坪内逍遙生誕150年記念

「山椿花いとなつかしも」展

山椿は坪内逍遙が好んだ花です。

幼い頃、椿の実を集め「木の実ふり」という遊びに夢中になりました。

逍遙にとって、山椿はいつまでも忘れられない心のふるさとでした。

本展覧会は、坪内逍遙生誕150年を記念して開催するものです。

逍遙がつづった記憶をもとに、ゆかりの品々を展示・紹介します。



150円 (100円)
高校生以下無料

()内はかるちすくらぶおよび団体料金

※2009年国際博物館の日の
協賛により5月16日(土)、17日(日)は
入場無料です

やま椿さけるを見れば
いにしへを幼きときを
神の代をおもふ

この木の実ふりにし事し
しのばれて山椿はな
いとなつかしも

坪内逍遙(1859-1935)

本名は坪内雄蔵。安政6年、美濃国加茂郡太田村(岐阜県美濃加茂市太田本町)で生まれ、10年間に過ごしました。小説家・劇作家・早稲田大学教授として活躍し、『小説神髓』『当世書生気質』『新修シェークスピア全集』は代表作です。

◇と き 4月18日(土)～6月7日(日)
午前9時～午後5時

◇ところ 文化の森

問 文化の森 28・1110

2009 **4** / 15

No.886